

## 古墳群の魅力発信 ～自転車の活用を中心に～

2019年7月6日、「百舌鳥・古市古墳群」が世界遺産に登録されました。その古墳群の魅力を発信するための提案を考えました。

事前学習では、堺市や古墳に関する基礎知識を学びました。私達は「古墳は教科書に載っている巨大な墓だ」というイメージを持ちました。

現地調査では、古墳、堺市役所、堺市博物館を訪れました。30基以上の古墳を回りましたが、実際に見ることで新たな発見がありました。仁徳天皇陵古墳のような巨大な墓だけではなく、住宅街にある小さな古墳もありました。そのため墓を歩いているのではなく、ただ森を歩いているような感覚でした。



堺市役所訪問では、堺市世界文化遺産推進室と堺市観光企画課の方にお話を聞きました。印象に残っているのは「これだけたくさん古墳があることに意味があるから、小さいものも登録してこそ百舌鳥・古市古墳群の価値がある、他にない遺産だ」とおっしゃったことです。改めて百舌鳥・古市古墳群の魅力を知ることができました。

堺市博物館では堺市の歴史を学びました。どの時代も非常に興味深く、堺市の古代から近代かけて、豊富な歴史的資源があることを知りました。

このような調査から考えた提案は、『『自転車の町』堺を生かした自転車の活用』です。堺市は古代から技術者が多く、ものづくりが盛んになり自転車工業が多くあります。さらに自転車に関する討論や研究が頻繁に行われていて、堺市ならではの取り組みが行われています。そのたくさんあるプランの中で「堺市自転車ネットワーク整備アクションプラン 50km」を活用させようと考えました。このプランは自転車整備を進めるというプランで、現在進行中です。小さい古墳も含めていることが、この古墳群の魅力なら、隅々まで自転車道を作ることが魅力発信に繋がるのではと考えました。また、古墳が密集しているエリアの近くには、歴史的資源が密集しているエリアがあります。例えば、与謝野晶子や千利休のゆかりの地があげられます。この2つのエリアをつなげることにより、堺市がこの先も人が集まり続ける町になると考えました。

今回ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。古墳群の魅力発信という難しいテーマでしたが、無事本番で行政の方に提案することができました。今回のプロジェクトを通じて地域課題を解決する難しさとやりがいを実感しました。SDGsということも勉強した今、改めて「持続可能な社会」とは何かを考え、社会に貢献できる人になりたいです。

参加者：【甲南大学】知能情報学部2年生 団野 和貴、文学部3年生 尾崎 聖奈、  
経済学部3年生 川畑 健真、中江 晴貴、理工学部3年生 前田 華織  
【市立堺高校】2年生 小林 永、大島 倭、逸崎 瑞喜、川端 隆士  
指導教員：甲南大学経営学部 准教授 藤田 順也